

## 時短！的確！知識構成型ジグソー法で職員研修をアレンジ☆

「埼玉県学力・学習状況調査」で学習課題がクッキリハッキリ！！

確かな学力と自立する力の育成ー確かな学力の育成ー

### ◆ 所属・提案者（◎代表者）

杉戸町立高野台小学校

◎小林 求 ・ 山野 眞

### ねらい

本校の背景として、力のあるベテラン教員の退職や、授業改善の必要性があること、「21世紀型能力」を子供たちに身に付けさせるとともに、教員自らも時代の変化に対応できる指導力（指導法等の共有財産の活用力・主体的に学び授業改善できる力・協同的に問題解決する力）を身に付ける必要があることが挙げられる。よって、知識構成型ジグソー法の型「ジグソー型」を使い職員全員が主体的に研修を進め、「埼玉県 学力学習状況調査」を適切に活用し全教員が明確な課題を共有し、その課題をもとに授業改善をすると共に、ベテラン教員と若手教員が協同的に問題解決を行うことで、教育的な知識や技能の伝承が行われる。

### 実践内容

#### ①「ジグソー型」～研修課題の設定～

学年ブロック（低中高）のグループに別れ、レジュメをもとに、全職員で課題を設定し、「ジグソー型」研修の進め方の説明を聞く。

◎課題「埼玉県学力・学習調査結果を分析し、本校の課題をみつけ、2学期からの授業改善・指導改善に生かそう。」

・管理職や担外教諭（教科専科教諭や少人数指導教諭、養護教諭）も割り振り、参加した。指導技術知識の伝承のため教職経験等のバランスも考慮し、意図的に配置した。

→「資料1」配布資料 →「知識構成型ジグソー法」<http://coref.u-tokvo.ac.jp/>

#### ②「ジグソー型」～エキスパート活動～

分担表「資料1」をもとに、同じ分担どうし（2学年各教科ずつ 例：小5算と小6算など）で集まり、分析資料を話し合いながらまとめていく。

◎課題「調査資料を分析し課題を見つけよう。」

＜分析資料＞・調査結果（小4～中1国算）  
・校内研（算数）アンケート結果  
・調査問題例（県HPより）

※小中一貫の取り組みから中1国算も扱った。

・各職員の資質能力を生かし、異なる視点を持つ他者との関わりを通し、話し合い、理解を深化させていた。（個性重視 協同的な活動）  
・責任感と使命感を持ち、全職員が自発的に対話・質疑を繰り返していた。

#### ③「ジグソー型」～ジグソー活動①～

学年ブロックで再度集まり、それぞれの分担ごとの分析結果をもとに、学校全体並びに自分の学年につながる指導課題を明確にする。

・自らが出した答え（対話を通じた質が高いもの）があることで、全ての教員が自信を持って学年ブロックのメンバーに説明することができた。  
・各学年の課題の共通点が明らかになり、本校の弱点の傾向がつかめた。

#### ④「ジグソー型」～ジグソー活動②～

課題をもとに、解決のための方策（授業・指導改善について）を考える。

・ベテラン教員と若手教員、中堅教員が意見を出し合う事で、教育的知識や指導技術の交流や伝承が行われた。 →「資料2」課題と方策

#### ⑤「ジグソー型」～クロストーク活動～

学年ごとに発表し課題と方策を全職員で共有する。  
・多様な授業改善の知識や指導法を交流し合うことができた。 →「資料2」課題と方策

#### ⑥「ジグソー型」～個人的な「学び」の振り返り～

学んだことを活かし、自分のクラスや出授業で実践できる改善を、自分なりに具体的にまとめる。  
・各担任は、自分なりの課題・方策を設定することで、2学期への授業改善の意欲が高まった。

### 実践時期・期間

○夏季休業日の校内職員研修の時間

- 計画 … 1時間 （今回は初めての実施）
- 資料用意 … 30分 （多くが調査結果の印刷）
- 実施 … 1時間半 （次回の実施は説明時間の短縮や慣れにより、より短縮可。）
- 分析結果と授業改善の資料作成 … 1時間 （学校学年の課題の集計や資料作成）

## 実践の成果や課題

- 【成果】 ○1時間30分で、小4から中1までの国語・算数の結果分析と本校の課題、二学期からの授業改善の方策まで立てられ、全職員間で共有することができた。本校の学習の弱点が明確になった。
- 職員からは、「楽しかった」「勉強になった」と多くの意見が寄せられた。「ジグソー型」による主体的な職員研修により、職員の学ぶ意欲関心を向上させられることが分かった。
- 各担任は、自らの力で立てた課題に向け、2学期以降の授業改善（明確な課題の意識）も意欲的に行えた。例：家庭学習の改善、「朝の活動」の内容の焦点化（東部教育事務所HPのプリントを活用等）、算数の図・式・言葉の一体化、授業振り返りの徹底、読書活動の強化、掲示の工夫（弱点の慣用句に変更）、日記（文法を正しく書く）、辞書引き（語彙力向上）、読解の授業改善、教科の生活化、ICT活用、ジグソー法等。
- 参加（発言）していない職員は一人もいなかった。全員が無理のない自然なかたちで、積極的に意見や考えを伝え参加していた。参加者は、一人では思いつかないことも、他者（様々な職員の教育財産）の力を合わせれば問題解決できること（協働・協調・共有の良さ）を実感していた。終わった後は、どの職員も笑顔で充実感のある良い雰囲気になった。また、この時間外でも分析の続きをする職員も見られた。
- 11月の学校評価では、昨年度より「授業」に関する項目において、多くのクラスで向上が見られた。
- 【課題】 ○初めての取組だったので、職員が理解するのに時間がかかってしまった。
- 予定時間をオーバーしてしまった。また、慌ただしかった感がある。

(右) ICTを活用した授業



## セールスポイント

- 「埼玉県学力・学習状況調査」の詳細な分析により、児童に身に付けさせたい学力や学力に関する課題（どんな力を身に付けさせたいか）を理解できる。（共通理解）
- 参加していない職員0人。参加者全員が生き生きと参加できる。（主体的）
- 膨大な資料分析もあっという間に終わる。（時短）
- 本校の学習状況の弱点が浮き彫り、新たな課題が明確になる。（県と同様に本校でも『活用力』『各教科の生活化』等）（一目瞭然）
- 豊富な経験を持つベテラン教員の指導法を聞く機会になる。（教育財産の伝承）
- 全職員の協働（協同的活動）により、職員間の距離が縮まる。（連携、共に助け合う）

(右)「ジグソー型」研修



## 他校で導入するポイント

(右) 課題解決のための取組

- 当日欠席者がいても問題なく行えるので安心である。
- 解決すべき課題（必要感があり、組織的解決が望ましく、一人では困難なもの）を始めに、明確にする。
- 「知識構成型ジグソー法」体験することで、この学習過程自体を職員に実感を伴い広めることができる。
- 校長や教頭等の管理職も一緒に参加し、全職員で行うことが大切。学校運営（授業改善や共通理解等）にもいかせる。また、管理職と一般職員の関係も自然な形で話し合い、意見を交換し、知識を共有することができる。よって、充実した学び合い・高め合いのある研修になる。

(慣用句の掲示)



(右) ジグソー学習（総合）

## 失敗しないための方策

- 参加する職員の自発的な学びなので、失敗はほぼない。
- 時間を区切る。（いくら時間があってもキリがないので、時間を設定しておくが良い。）
- エキスパート学習の時間の人数は、ジグソー法と同様で3人（無理なら4人でも可）が良い。（児童と同じで、2人だと深まらなく、5人以上だと参加しない人が出てくる。）
- 参加者なりに最良の方法を考えているため、話し合いで方策を共有し、指導者等が最後にまとめない方がよい。（ここで言うまとめとは「こうすべき」や「〇〇しなくてはいけない」等）



## こうすればより高い効果が得られる方策など

- 「ジグソー型」研修は、「全国学力・学習状況調査」等の分析以外にも、課題や目標を明確にさせたい場合（様々な課題解決や目標マネジメント）にも同様にして行うことができる。
- 繰り返しこの型を研修で行い、慣れるとさらに効率良く、深化した内容になる。
- 1年後も同様の形で、研修を行うことで、授業改善の方策が効果的だったかどうか、検証・分析が行える。（継続的）

## 外部有識者からのコメント

校内の研修等では、どうしても学年などで固まってしまうことが多い中、若手・ベテラン・中堅をうまく組ませてグループ構成しながら取り組んでいる意図的などがよい。ジグソー法は学習方法の一つだが、課題解決の方策に活用し、先生方の協働・共通理解を図っていくことに活用した点は、他の学校に勧められる。一方的に講師の話聞く研修から先生方一人一人の考えを出し合い深め合う研修へと転換させていくことが重要である。いわゆるジグソー法を活用して、アクティブ型の研修を行っている点が良い。